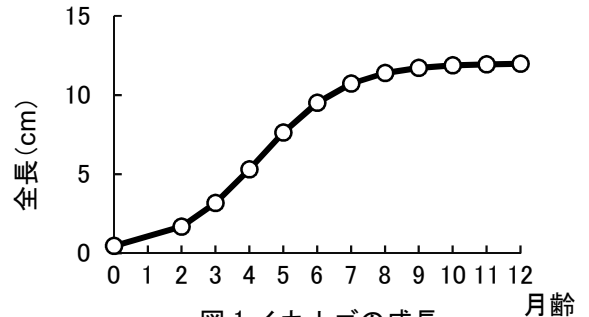


イカナゴ （コウナゴ（稚魚） メロウド（成魚））



生態的特徴等

【生態】 沖縄を除く日本沿岸に広く分布するが、特に産卵場がある瀬戸内海、伊勢湾、茨城県以北の太平洋沿岸に集中的に分布する。産卵期は12～1月で、体長3cm程になる3月頃から漁獲対象となり、水温が上昇する7月頃に粗砂～砂礫質の海底に潜って冬まで夏眠する。満1歳で成熟、寿命は6～7歳と考えられており、最大で27cm程度となる。餌はカイアシ類や小型甲殻類で、成魚は他に魚類仔魚やオキアミ類も捕食する。体長7cm程度までの稚魚はコウナゴ、これより大きいサイズはメロウドと呼ばれる。



【漁法と盛漁期】 漁期は、コウナゴは2～5月、メロウドは6～7月で、いずれも船曳網で漁獲される。茨城県で漁獲されるイカナゴは、地先発生群よりも仙台湾からの来遊群が主体で、冷水の南下にともない茨城県沿岸に来遊すると考えられている。

【利用】 コウナゴは煮干しや佃煮（くぎ煮）の原料として、メロウドは主に養殖餌料向けになり、大型のものはヒラメ釣り・延縄の餌としても利用される。コウナゴはプライドフィッシュ（春）に選定されている。

来遊資源は低位・横ばい

（漁獲量） 年変動が大きく1万トン以上漁獲された年もあったが、近年、漁獲量は減少し、H30年はわずか20kg、R1年以降は漁獲がみられなくなっている（図2）。

（水準と動向） 茨城県のコウナゴ来遊資源は、海況と仙台湾の資源量の影響が大きく、震災以降、仙台湾の資源量は極めて低位になっている。茨城県の過去30年間（震災影響年を除く）のCPUE（kg/隻・日）の推移から、水準は「低位」、過去5年の傾向から、動向は「横ばい」とした（図3）。

水 準



動 向

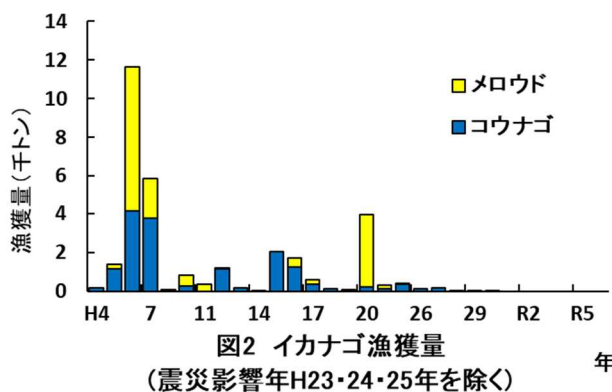
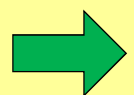


図2 イカナゴ漁獲量

（震災影響年H23・24・25年を除く）

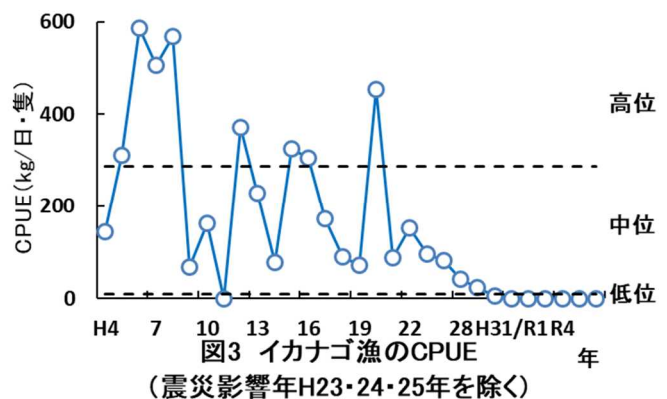


図3 イカナゴ漁のCPUE

（震災影響年H23・24・25年を除く）

【全国の漁獲動向】

・茨城県の漁獲量は0トンで、1位は兵庫県、2位は香川県、3位は北海道。（R5 漁業・養殖業生産統計）